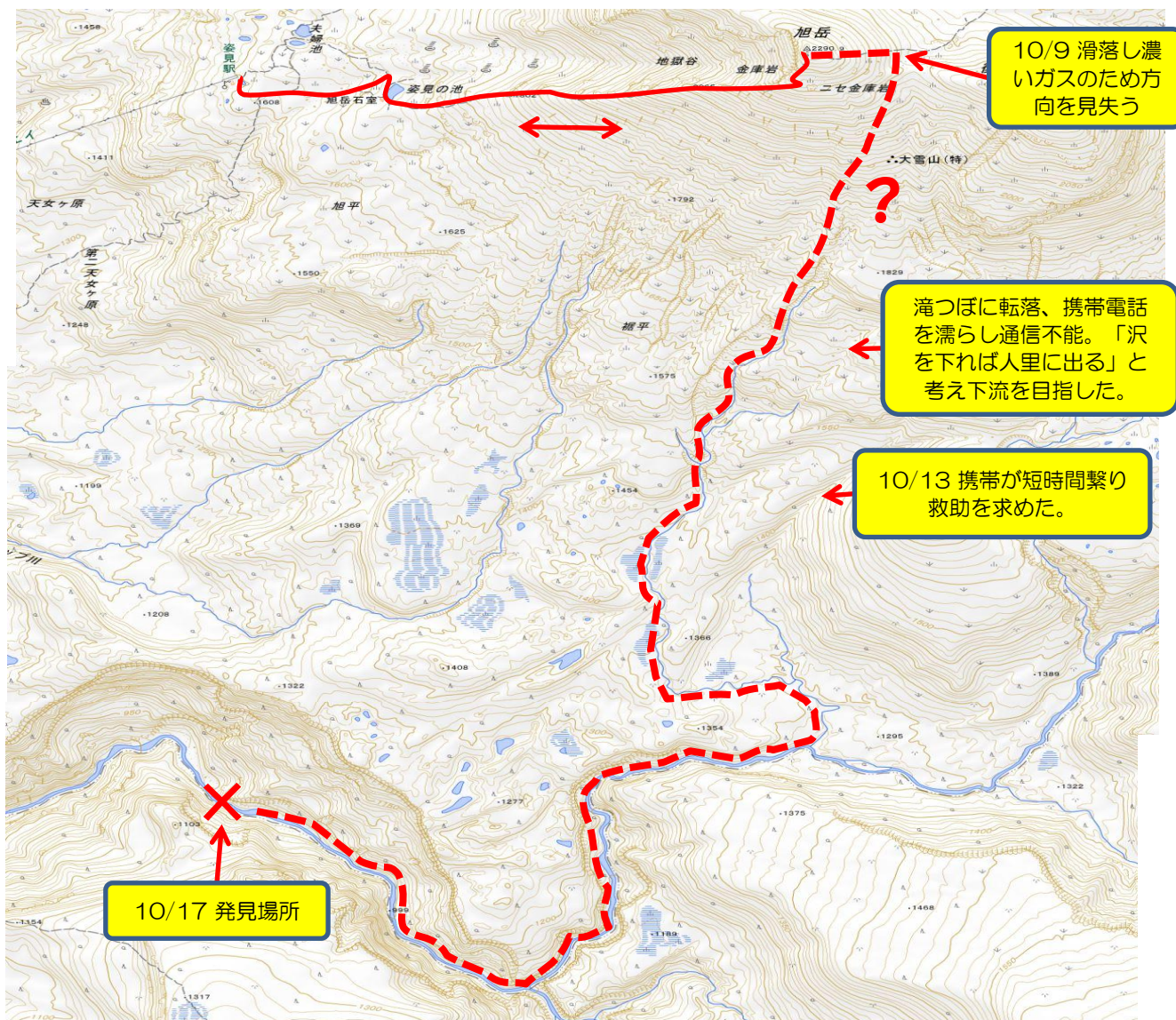


旭岳遭難(2005年10月)

ウインドブレーカーの上下にトレーナー、ザックも持たず軽装で登山。8日ぶりに無事発見された。遭難者は自衛隊のレンジャー資格をとっており、過酷なサバイバル訓練を受けていたのが幸いした。



解説

遭難者は、登山経験もなく、装備も持っていない。山頂付近には10cm近くの積雪があり、下山時にアイスバーンで30m近く滑落した。心の焦りからか、ここからの行動が道迷い遭難につながったと言える。筆者の方は、「小さな判断ミスで少しだけルートがそれてしまい、その後、確実な根拠もないまま下り続けたために、正規ルートとのずれがどんどん大きくなっていき、気が付いた時には修復不可能な事態になっていしまう。最後には、とにかく強引に下り切るか、動かずに救助を待つかの選択しかなくなっている。そして、『確実な根拠もないのに下り続ける』という行為は本人の自信に基づいている。本事例の場合はレンジャー有資格の、過酷な状況下でも歩きぬくことができるという自信がそれに該当する。」と書かれている。

途中で携帯電話が繋がったことにより、遭難救助の捜索打ち切りにならずによかった。また、沢を下ってはいけないという事例である。十分注意したい。